

「個から地域への看護活動の広がりをめざして」

令和3年度在宅ケア認定看護師教育課程 研修生
吉田 陽子(兵庫県:医療法人社団清和会訪問看護ステーションそよかぜ)

私は訪問看護師として10年目になり、医療依存が高い方や様々な状況の方に関わることも多くなりました。その状況に対して的確なアセスメントや支援を行う為に、在宅に特徴的な看護の知識を深めたいと思い、在宅ケア認定看護師教育課程を受講することにしました。

入学してから、e-ラーニングの受講と日々の仕事、家庭の両立は大変なことも多く、学習の進め方に戸惑うことがありました。教員とのオンライン面談や、入学式後のZoomブレイクアウトルームを使用した研修生の交流を利用して、アドバイスやヒントをもらうことができました。今ではe-ラーニングを着実に進め、受講した内容を振り返りながら日々のケアに活かしているように思います。

臨床病態推論やフィジカルアセスメントのe-ラーニングを受講した後に、スタッフから療養者の発熱の報告と相談がありました。その状態から考えられる病態を推論して、より具体的な身体所見の観察項目をスタッフに伝えて確認し、病歴や状況も合わせた原因のアセスメントを行った後に、主治医に報告し指示をもらうようになりました。まだまだ臨床病態推論は難しいですが、病態をしっかり捉えることは療養者を看るうえで1番大事なことだと思います。

5月には初めてのオンライン講義で「在宅ケア認定看護師」の役割や自分たちがなりたい認定看護師像について、研修生とグループワークを行いました。新たに「在宅ケア認定看護師」と名称が変わり、在宅療養に関わる地域での幅広い活動が求められています。まずは小さなことから自ステーションに貢献し、住み慣れた地域で望む暮らしができるように、多職種との連携を深めていきたいと考えています。認定看護師資格の取得をめざし、1年間頑張っていきます。



訪問看護ステーションの前で「いってきます」